

2016年度（2017年3月期）
第3四半期 決算説明会

2017年1月31日

セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とはほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1) 2016年度 第3四半期決算

2) 2016年度 業績予想

決算ハイライト（第3四半期連結累計期間）

(億円)	2015年度		2016年度		前年同期比				
	累計	%	累計	%	増減額	増減率			
売上収益	8,374	-	7,658	-	-715	-8.5%			
事業利益	727	8.7%	540	7.1%	-187	-25.7%			
営業利益	819	9.8%	572	7.5%	-246	-30.1%			
税引前四半期利益	803	9.6%	573	7.5%	-229	-28.6%			
四半期利益	552	6.6%	470	6.1%	-81	-14.7%			
EPS*	153.64 円		132.93 円		為替影響額 (億円)				
換算 レート	USD	121.70 円	106.63 円		USD	EUR	他	計	
	EUR	134.36 円	118.02 円		売上 収益	△332	△170	△414	△917
					事業 利益	+60	△120	△170	△230

* 基本的1株当たりの四半期利益

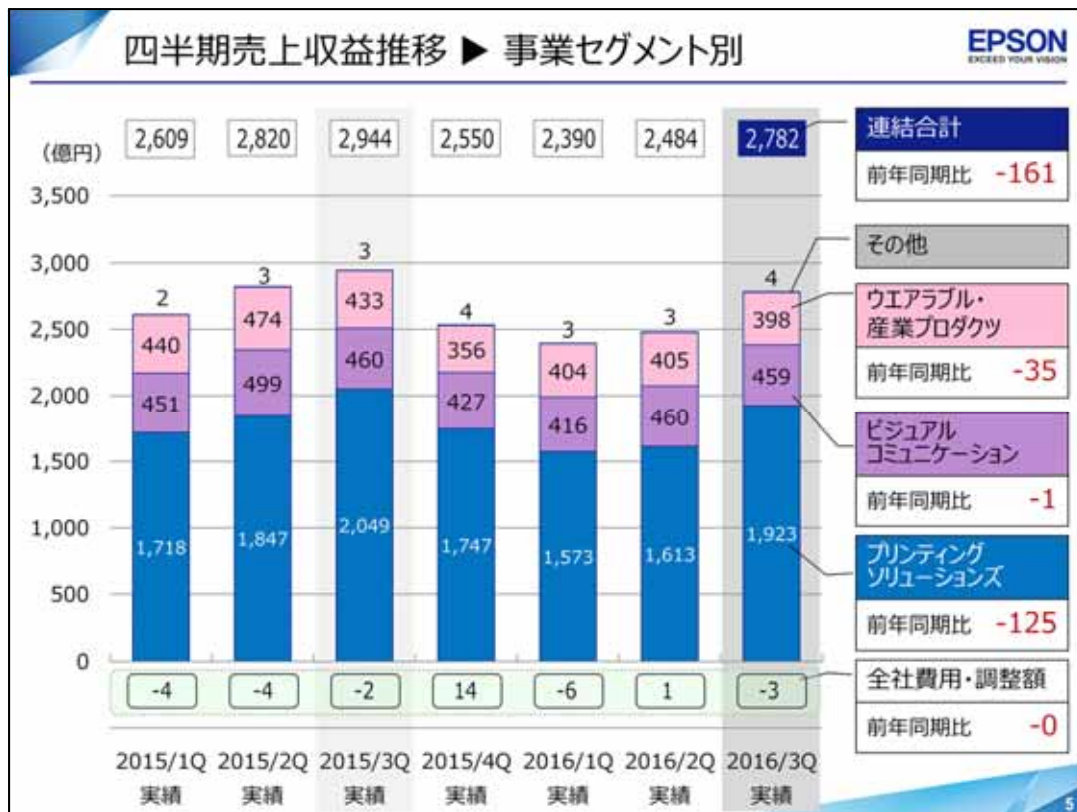
- 2016年度 第3四半期連結累計期間の実績は、ご覧のとおりです。
- 売上収益は、前年同期比 715億円減収の 7,658億円、事業利益は、187億円減益の 540億円、四半期利益は、81億円減益の 470億円となりました。
- 当累計期間も、為替変動により、売上収益で917億円、事業利益で230億円の大きなマイナス影響を受けたことで、売上収益、事業利益ともに前年同期を下回る結果となっています。
- しかし、為替影響を除きますと、Epson 25 第1期中期経営計画に基づき、将来の持続的成長に向けて、新商品の準備や生産体制の強化など費用投入を積極的に行いながらも、戦略商品の販売拡大などにより、前年からの着実な成長を実現できたと考えています。

決算ハイライト（第3四半期）

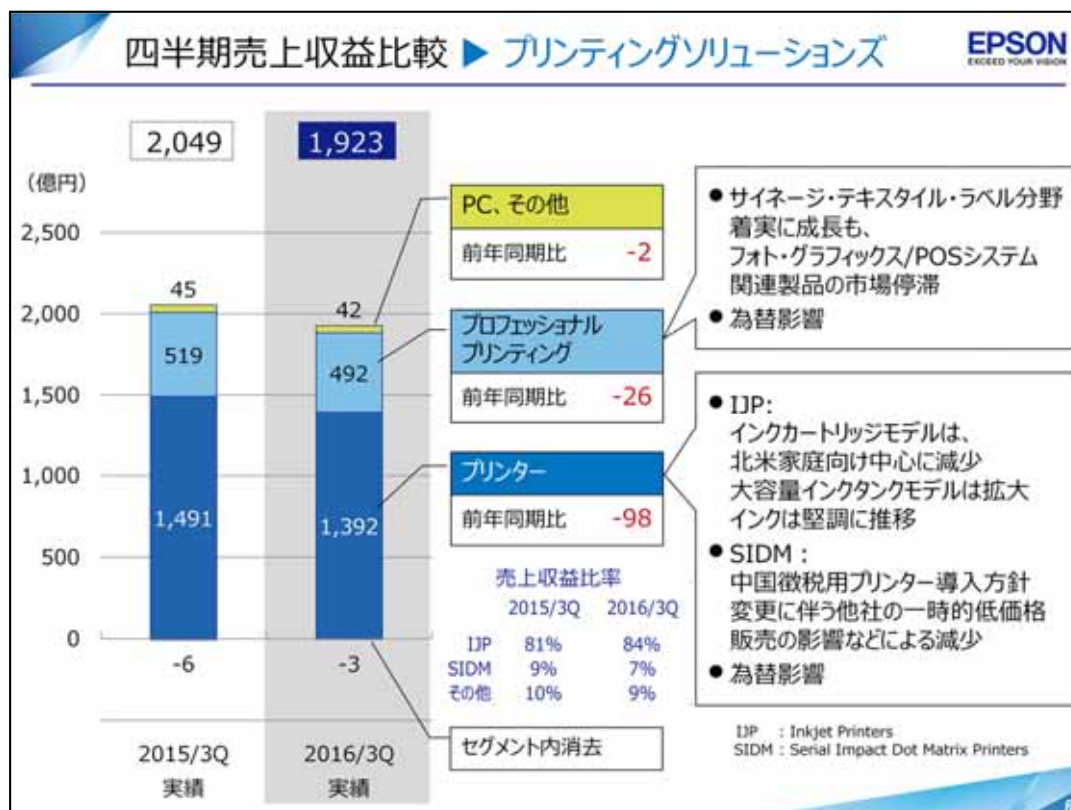
(億円)	2015年度		2016年度		前年同期比				
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率			
売上収益	2,944	-	2,782	-	-161	-5.5%			
事業利益	325	11.0%	283	10.2%	-41	-12.9%			
営業利益	401	13.7%	295	10.6%	-106	-26.6%			
税引前四半期利益	402	13.7%	303	10.9%	-98	-24.6%			
四半期利益	290	9.9%	284	10.2%	-5	-2.0%			
EPS*	80.89 円		81.03 円		為替影響額 (億円)				
換算 レート	USD	121.50 円	109.30 円		USD	EUR	他	計	
	EUR	132.95 円	117.78 円		売上 収益	△88	△61	△108	△259
					事業 利益	+12	△44	△43	△74

* 基本的1株当たり四半期利益

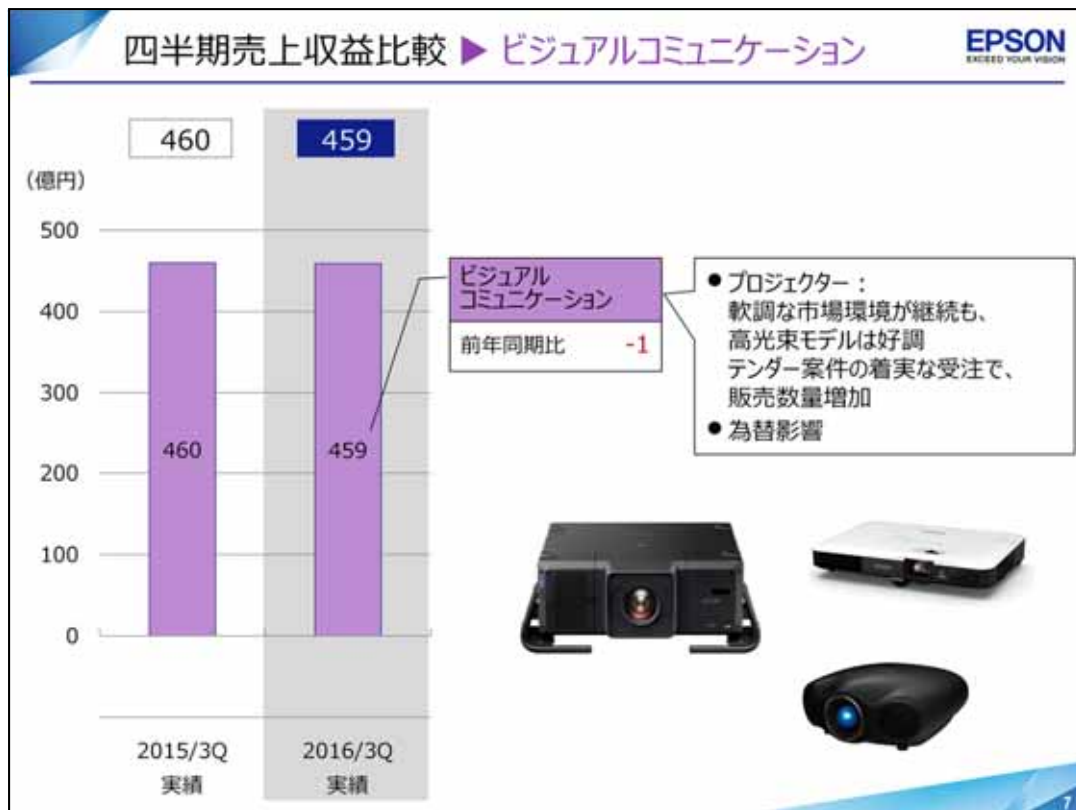
- 2016年度 第3四半期実績は、ご覧のとおりです。
- 売上収益は、前年同期比 161億円減収の 2,782億円、事業利益は、41億円減益の 283億円、四半期利益は、5億円減益の 284億円となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額は、売上収益で 259億円、事業利益で 74億円 のマイナス影響となりました。



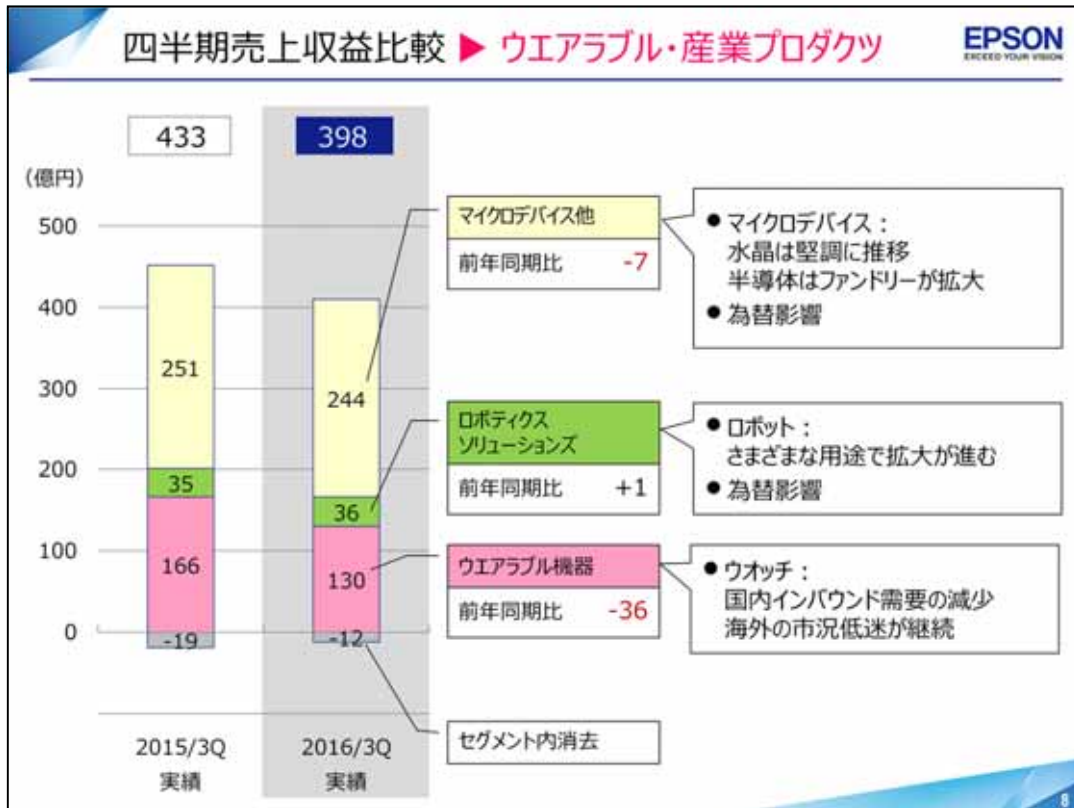
- 事業セグメント別の四半期 売上収益推移はご覧のとおりです。
- 事業別の状況は次ページ以降でご説明します。



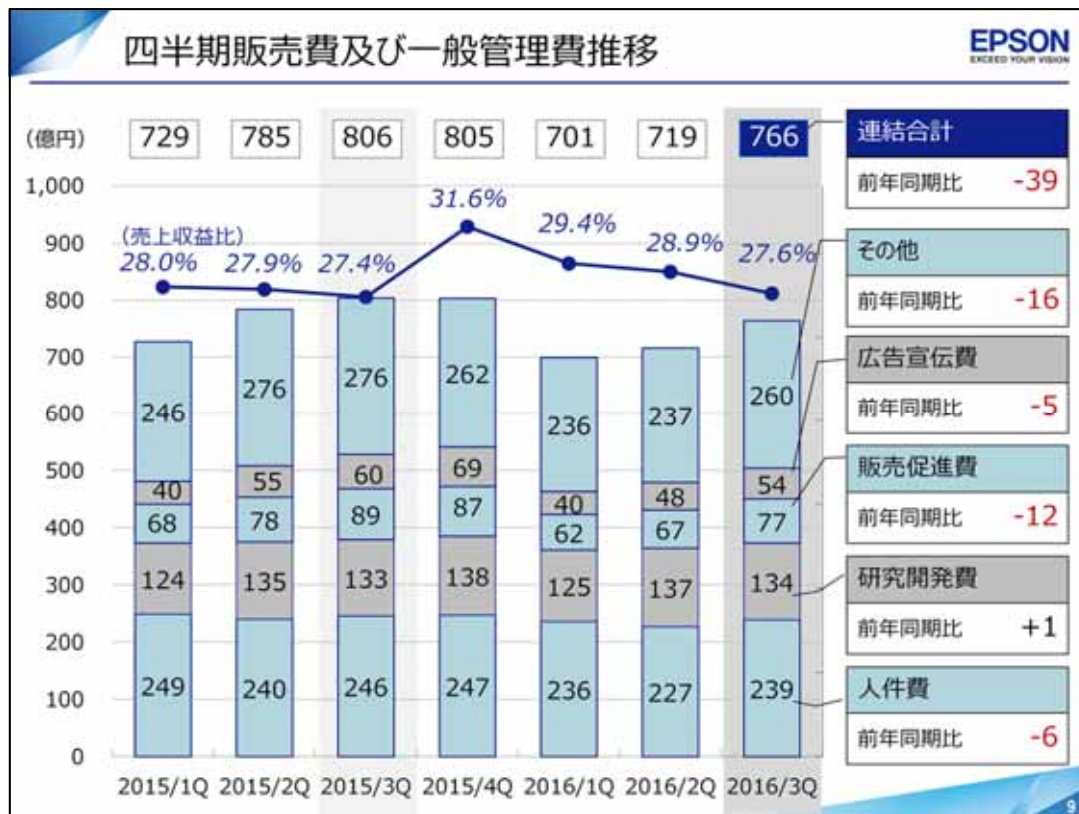
- ▶ プリンティングソリューションズの前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- ▶ プリンター事業では、インクジェットプリンターが、インクカートリッジモデル本体で、市場が停滞する中、北米において、競合による家庭向け低価格帯を中心にしたプロモーションの影響を受けたことなどにより、販売数量全体は減少しました。しかし、日本では、家庭向けの市場が縮小する中でも、新商品投入効果などにより前年並みの販売数量および平均販売単価の上昇を実現することができました。
- ▶ また、大容量インクタンクモデルは、競合他社の影響が懸念されましたが、市場の活性化や、昨年度に通貨下落の影響により一時的に販売が停滞した中南米でも販売拡大のペースが回復し、全地域で好調な販売が継続しました。
- ▶ さらに、インク売上も、堅調に推移したことで、インクジェットプリンターとしては、着実に拡大を果たすことができました。
- ▶ しかし、SIDMで、中国において、税制改定に関わる方針転換の影響を受け、他社が一時的に低価格販売を実施したことや、一部業種における電子インボイス導入などによる減少がありました。
- ▶ 加えて、為替のマイナス影響もあり、プリンター事業全体では、減収となりました。
- ▶ プロフェッショナルプリンティングでは、サイネージ、テキスタイル、ラベルの新規分野は着実に成長しましたが、フォト・グラフィックスやPOSシステム関連製品が、市場停滞の影響を受け、加えて、為替のマイナス影響により事業全体で減収となりました。



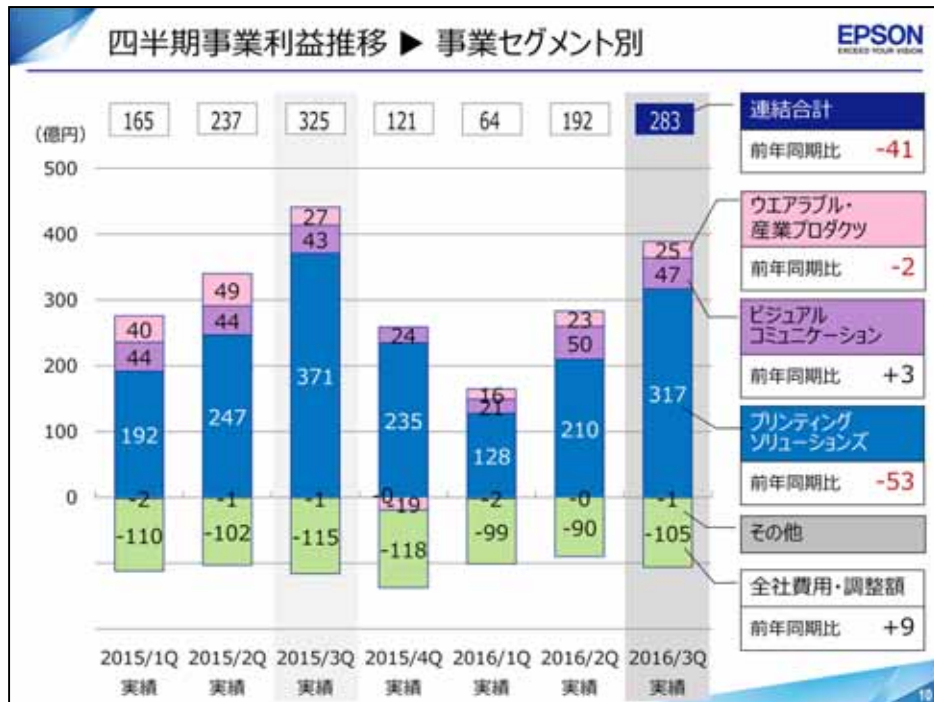
- ▶ ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターが、市場自体は軟調に推移する中で、3LCDプロジェクターの特長や豊富なラインアップを生かした販売活動を推し進めてきました。
- その中で、レーザー光源を搭載した高光束プロジェクターの新商品は、大手レンタル業者などのお客様から高い評価を受け、販売が好調に推移しました。また、欧州やアジアの教育などのテンダー案件も着実に受注できたことで、販売数量が増加しました。
- その結果、為替によるマイナス影響を相殺し、前年同期並みとなりました。



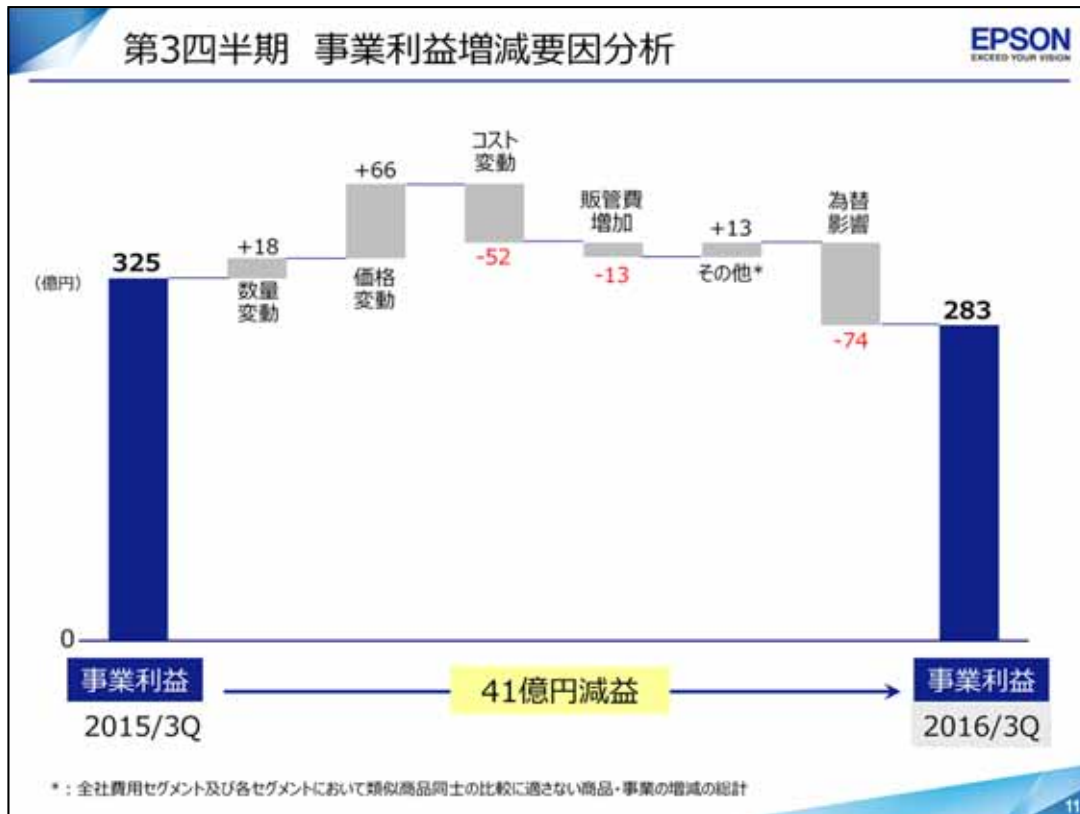
- 続いて、ウェアラブル・産業プロダクツです。
- ウェアラブル機器は、
ウォッチの国内インバウンド需要が沈静化するとともに、
海外の市況低迷が継続し、加えて為替の影響もあり、減収となりました。
- ロボティクスソリューションズでは、
中華圏でのモバイル機器や電機関連部品の組み立て用途に加え、
欧米での自動車部品組み立て用途など、さまざまな用途やお客様への販売が
増加したことで、為替の影響を相殺し、前年同期並みとなりました。
- マイクロデバイス他は、
水晶で、パーソナル機器向けが軟調だったものの、
産業向けなどが増加したことで堅調に推移し、
半導体で、ファブリービジネスが好調に推移したものの、
為替の影響により、減収となりました。



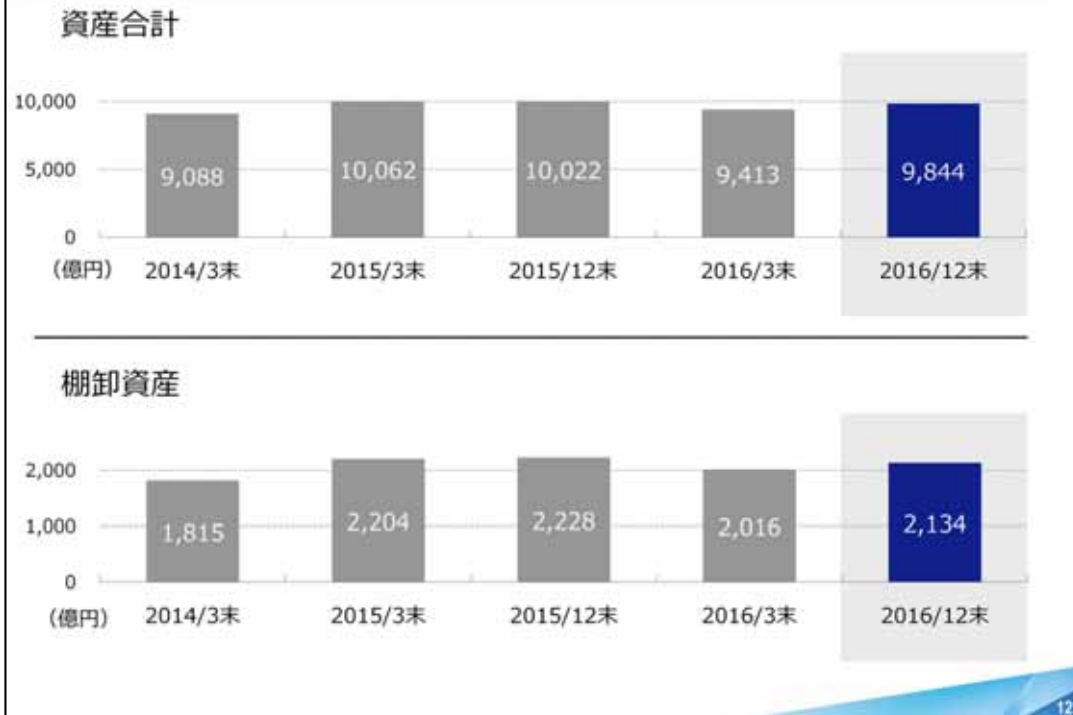
- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧の通りです。
- 第3四半期の前年同期との比較では、円高の影響により円換算金額が減少したことで、連結合計で39億円の減少となりました。



- 事業セグメント別の 四半期 事業利益推移は、ご覧のとおりです。
- 当四半期において、プリンティングソリューションズは、前年同期に対し、SIDMの数量が減少したことに加え、為替の影響により減益となりました。
- ビジュアルコミュニケーションは、好調を維持したものの、為替のマイナス影響があったことで前年同期並みとなりました。
- ウェアラブル産業プロダクツは、マイクロデバイス他が堅調に推移したものの、ウオッチ市況の低迷や為替の影響により前年同期並みとなりました。
- しかしながら、為替影響を除いた場合の比較では、事業ごとに濃淡はあるものの、最大の商戦期において、前年同期に対し増益を確保できたことから、戦略の成果は着実に実績として取り込んでいると考えています。
- ここで、10月27日に開示した通期業績予想のベースとなる第3四半期の社内計画に対する比較をご説明します。
- プリンティングソリューションズは、プリンター事業において、SIDMで、中国における税制改定に関わる方針転換によるマイナス影響がありました。一方で、他社参入の影響が懸念された大容量インクタンクモデルで、販売単価が想定を上回り、また、プロフェッショナルプリンティングが順調に推移したこと、さらに為替のプラス影響があり、セグメント全体で、売上収益、事業利益ともに、計画を若干、上回りました。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターが順調に推移するとともに、為替のプラス影響があったことで、売上収益、事業利益ともに計画を若干、上回りました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、ウェアラブル機器がウオッチ市場の低迷の影響を受けたものの、ロボティクスソリューションズ、マイクロデバイス他は順調に推移し、為替のプラス影響があったことで、売上収益・事業利益ともに、ほぼ計画通りとなりました。
- 以上により、連結合計では、売上収益、事業利益ともに、計画に対し若干の上振れとなりました。



- 事業利益の前年同期比 減損額41億円の要因分解は、ご覧のとおりです。為替の変動により、74億円のマイナス影響を受けることとなりました。
- 数量変動は、ミックス変動が進行しているインクジェットプリンターのインクや、SIDM、ウォッチ等の減少がありました。大容量インクタンクモデル、大判プリンター、プロジェクター、半導体、ロボットなどのプラスが上回りました。
- 価格変動は、半導体などで商品ミックス変動に伴うマイナス影響などがありましたが、インクのミックス変動などによる平均販売単価の上昇効果に加え、プロジェクターにおける高光束モデルの増加や、インクジェットプリンター本体における日本での価格競争の鎮静化、北米での低価格モデルの販売減少などによる、平均販売単価の上昇がありました。
- コスト変動は、コスト削減のプラス効果があるものの、高付加価値品の販売増加に伴う一台あたりのコストの増加などによるものです。
- 販管費の増加は、販売体制強化などによるものです。



- 財政状態計算書の主要項目についてご説明します。
- 資産合計は、現金及び現金同等物が減少した一方で、売上債権及びその他の債権、棚卸資産、有形固定資産などが増加したことで、前期末から431億円増加し、9,844億円となりました。
- 棚卸資産は、前期末に対して118億円増加し、2,134億円となりました。

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



*有利子負債：リース負債を含む

- 有利子負債は、社債が増加となる一方で、短期借入金の返済を進めた結果、前期末に対して11億円減少の、1,406億円となり、資産合計の有利子負債依存度は14.3%となりました。
- ネットキャッシュは、687億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、第3四半期までの業績などにより前期末に対して205億円増加の4,884億円となり、親会社所有者帰属持分比率は、49.6%となりました。

1) 2016年度 第3四半期決算

2) 2016年度 業績予想

2016年度 業績予想

(億円)	2015年度		2016年度				前期 実績比	10/27 予想比
	実績	%	10/27予想	%	1/31予想	%		
売上収益	10,924	-	10,000	-	10,200	-	-724 -6.6%	200 +2.0%
事業利益	849	7.8%	600	6.0%	640	6.3%	-209 -24.7%	40 +6.7%
営業利益	940	8.6%	600	6.0%	640	6.3%	-300 -31.9%	40 +6.7%
税引前利益	915	8.4%	590	5.9%	630	6.2%	-285 -31.2%	40 +6.8%
当期利益	460	4.2%	460	4.6%	480	4.7%	+19 +4.2%	20 +4.3%
EPS*	127.94 円		130.60 円		136.28 円			
換算レート	USD	120.14 円	103.00 円		107.00 円			
	EUR	132.58 円	114.00 円		117.00 円			

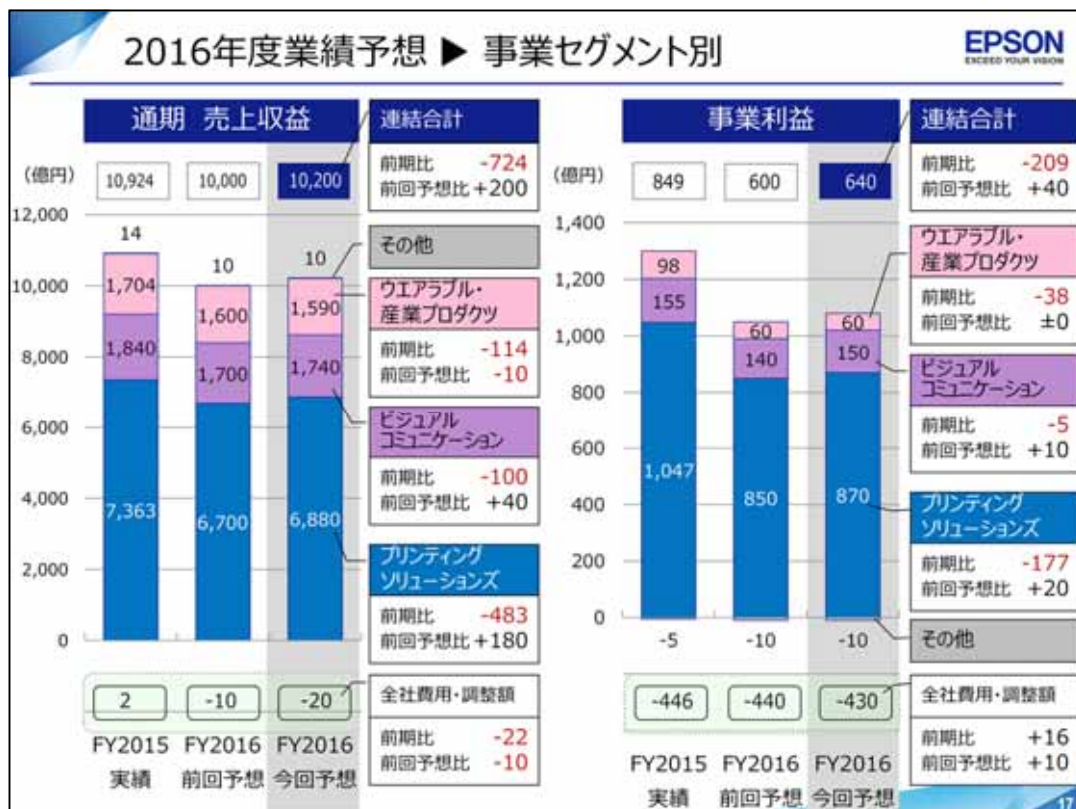
* 基本的1株当たり当期利益

● 今回予想：4Qの為替レート前提
USD：110.00円
EUR：115.00円
● 為替感応度（年間）
・1円高での事業利益への影響
USD：+3億円 / EUR：△9億円
・1%円高の場合の事業利益への影響
USD/EUR以外の合計：△10億円

- 2016年度通期の業績予想はご覧のとおりです。
- 売上収益は、200億円 上方修正の、1兆 200億円、
事業利益は、40億円 上方修正の、640億円、
当期利益は、20億円 上方修正の、480億円としました。
- 第4四半期の為替前提は、足元の不安定な状況を踏まえ、
USD110円、ユーロ115円としました。
- その他通貨の水準は、USDとの連動性が弱まっており、
USDに対して下落する前提としています。

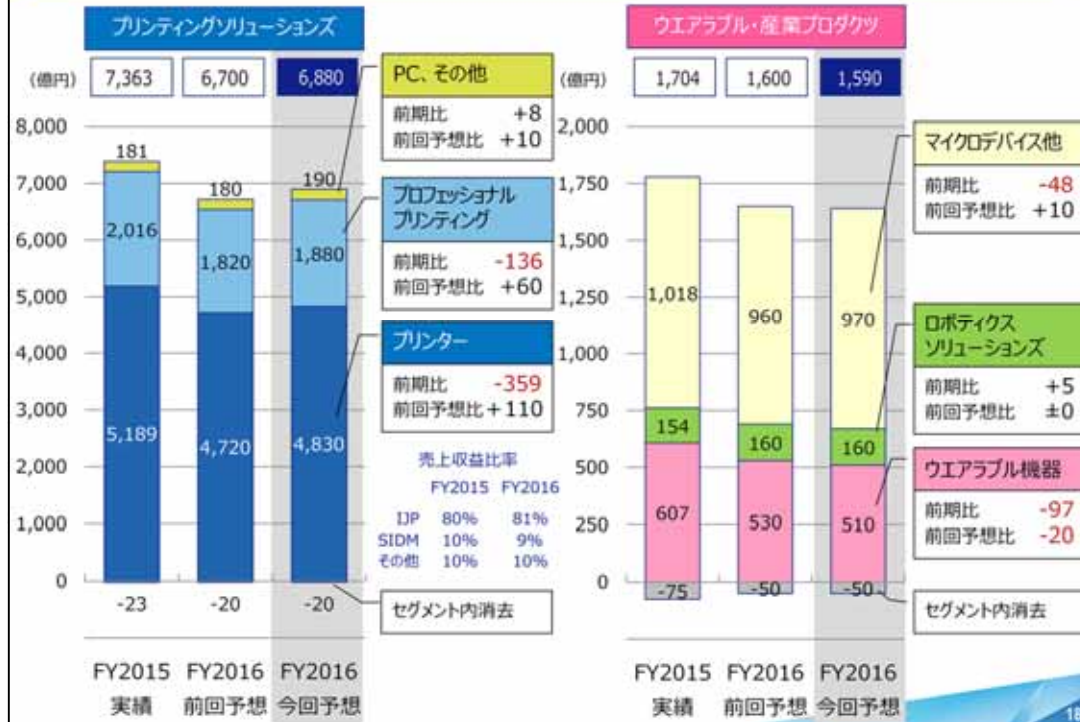
- 為替前提の見直し（4Q：110円/USD、115円/EUR）
 - ✓ 売上収益 約200億円、事業利益 約40億円のプラス影響（下期影響額）
- 為替影響を除いた売上収益、事業利益は、第3四半期の状況を踏まえた事業ごとの見通しを反映した結果、前回予想値並み
 - <プリンティングソリューションズ>
 - ✓ 大容量インクタンクモデルの販売価格が、安定的に推移
 - ✓ 家庭向けを中心としたIJPのインクカートリッジモデル本体の減少
 - ✓ 中国向けSIDMの数量減少
 - <ビジュアルコミュニケーション>
 - ✓ 4Qも順調に推移する見通し
 - <ウェアラブル・産業プロダクツ>
 - ✓ 市況の低迷によるウオッチ販売減
 - <全社費用>
 - ✓ 固定費の削減
- 戦略商品の販売拡大や成長に向けた基盤整備は着実に進展

- この結果、今回の業績予想の修正は、為替前提を変更したことによるプラス影響を反映したものとなりました。
- 一方、各事業の状況についても、最新の予想に基づき見直しを行った結果、為替影響を除いた連結合計の売上収益、事業利益は、前回予想並みとなりました。
- プリンティングソリューションズは、プリンター事業において、インクジェットプリンターで家庭向けを中心としたインクカートリッジモデル本体の減少や、SIDMで数量の減少を織込む一方、大容量インクタンクモデルで販売価格が前回予想の前提を上回り、安定的に推移することを見込んでいます。
- ビジュアルコミュニケーションは、前回予想に沿って順調に推移する見通しです。
- ウェアラブル・産業プロダクツでは、ウェアラブル機器でウオッチ市況の低迷の影響が見込まれます。
- 全社費用では、研究開発費の執行時期などの精査により、減少を見込みました。
- このように、各事業の見通しは外部環境の変化に対応したものとしていますが、戦略商品の販売拡大や成長に向けた基盤整備は、着実に進展させます。
- プリンティング領域では、基幹部品であるPrecisionCoreプリントヘッドの生産能力増強および研究開発機能の強化を目的とした、新工場の建設を開始しています。
- また、オフィス製紙機 PaperLabも12月に販売を開始しました。
- そして、ラインヘッド搭載のオフィス向けインクジェットプリンターは、商品投入に目途がつかしました。
- 従来のエプソンに無かったお客様価値を提供し、世の中に「なくてはならない会社」の実現に向けた取り組みを確実に進めています。



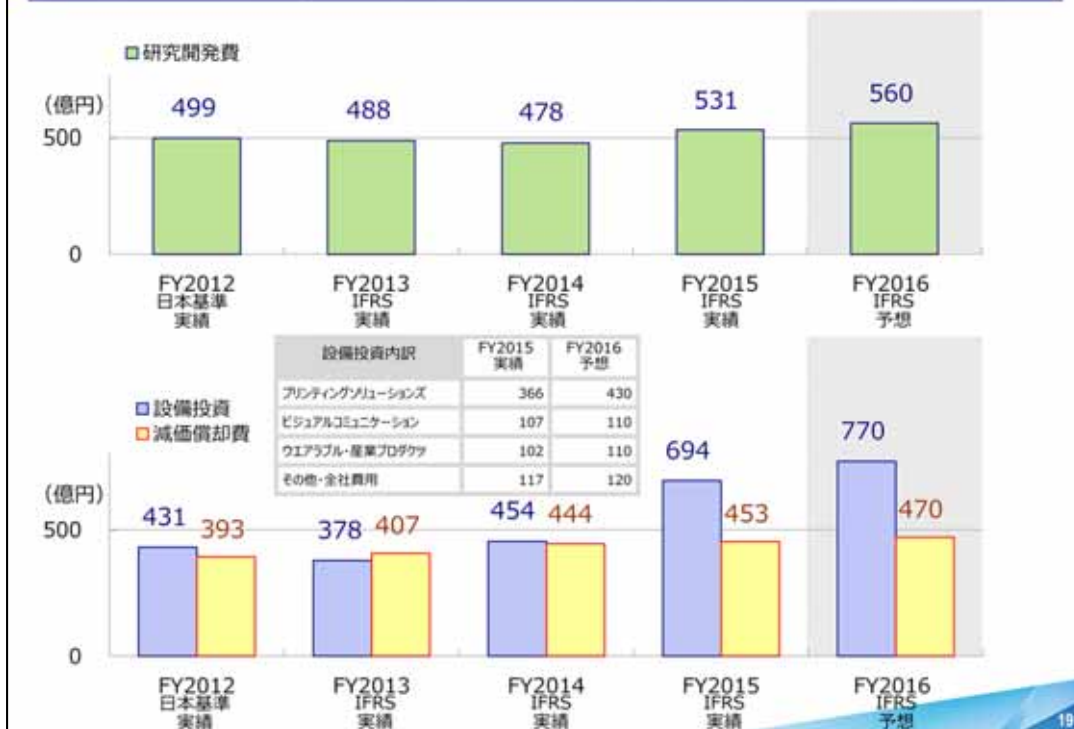
- 通期における事業セグメント別の売上収益予想と事業利益の内訳は、ご覧のとおりです。
- プリンティングソリューションズは、事業ごとの濃淡はありますが、セグメント全体では前回予想に沿って推移し、為替のプラス影響により、売上収益を180億円、事業利益を20億円上方修正します。
- ビジュアルコミュニケーションも、エプソンの販売は順調に推移しており、為替影響を加味し、売上収益を40億円、事業利益を10億円、上方修正します。
- ウェアラブル・産業プロダクツでは、為替影響に加え、ロボティクスソリューションズ、マイクロデバイス他が想定通り進捗している一方で、ウェアラブル機器でウオッチ市場の低迷継続が見込まれることから、セグメント全体で売上収益は10億円の下方修正としますが、事業利益は、固定費削減なども見込み、前回予想を据え置きます。
- 全社費用では、10億円の固定費減少を見込みました。

2016年度業績予想・事業別売上収益

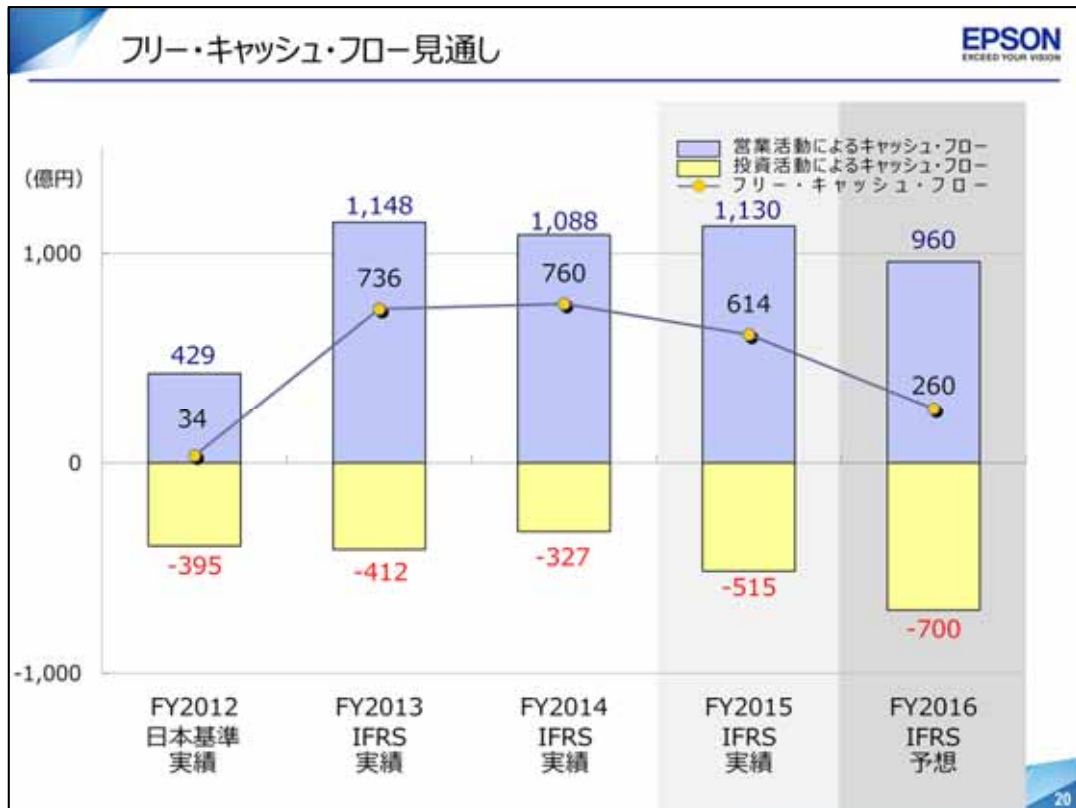


➤ プリンティングソリューションズとウエアラブル・産業プロダクツの事業別の売上収益予想はご覧のとおりとなりますので、ご確認ください。

研究開発費/設備投資・減価償却費見通し



- 研究開発費ならびに設備投資は、将来成長に向け積極的な費用投入を行っていきます。



- キャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローを見直し、フリー・キャッシュ・フローは260億円となります。

主な経営指標の推移



- 以上の業績予想に基づく主な経営指標は、
 ROSが 6.3%
 ROAが 6.6%
 ROEが 10.0% となります。

補足資料

主な業績指標

(億円)					(億円)			
		FY2015 実績	FY2016 1/31予想	FY2018 目標	項目	FY2015 実績	FY2016 1/31予想	Epson 25 第1期累計
プリンティング ソリューションズ	売上収益	7,363	6,880	8,050	営業CF	1,130	960	3,300程度
	事業利益	1,047	870	-	FCF	614	260	1,200程度
ビジュアル コミュニケーション	売上収益	1,840	1,740	2,000	設備投資	694	770	2,100程度
	事業利益	155	150	-	研究開発費	531	560	積極的に投下
ウェアラブル・ 産業プロダクツ	売上収益	1,704	1,590	1,950	為替前提			
	事業利益	98	60	-		FY2015 実績	FY2016 1/31予想	Epson 25 第1期中期
その他	売上収益	14	10	0	USD	¥120.14	¥107.00	¥115.00
	事業利益	-5	-10	-	EUR	¥132.58	¥117.00	¥125.00
全社・調整額	売上収益	2	-20	0				
	事業利益	-446	-430	-				
連結合計	売上収益	10,924	10,200	12,000				
	事業利益	849	640	960				
	ROS	7.8%	6.3%	8%				
	ROE	9.5%	10.0%	継続的に 10%以上				

主要商品の販売動向

FY2015実績(FY2014比)、FY2016実績・予想(FY2015比)

ASP,売上収益は日本円換算後

商品		FY2015 通期(実績)	FY2016 1Q(実績)	FY2016 2Q(実績)	FY2016 3Q(実績)	FY2016 通期(予想)
IJP 本体	数量	+1%	+8%	+5%	+2%	+7%
	数量構成比 オフィス/大容量	約20%/ 約35%	-	-	-	約20%/ 約40%
	ASP	+1桁%台前半	-10%程度	-10%台半ば	-1桁%台前半	-1桁%台後半
	売上収益	+1桁%台前半	-1桁%台前半	-10%台前半	前期並み	前期並み
IJP インク	数量	0%	-3%	-7%	-2%	-
	ASP	+1桁%台半ば	-1桁%台前半	-1桁%台後半	-1桁%台前半	-
	売上収益	+1桁%台半ば	-1桁%台半ば	-10%台半ば	-1桁%台半ば	-1桁%台後半
SIDM 本体	数量	-6%	+19%	+10%	-13%	+3%
	ASP	+1桁%台前半	-20%台半ば	-20%台半ば	-10%台半ば	-20%台前半
	売上収益	-1桁%台前半	-10%程度	-10%台後半	-20%台後半	-10%台後半
プロジェク ター	数量	+2%	+9%	+8%	+7%	+6%
	ASP	+1桁%台前半	-10%台半ば	-10%台半ば	-1桁%台後半	-10%台前半
	売上収益	+1桁%台半ば	-1桁%台後半	-1桁%台後半	前期並み	-1桁%台半ば

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。

EPSON
EXCEED YOUR VISION